

漁協・漁業者と連携を進める漁網メーカー

研究員 植田展大

1 大きく減少した漁網生産量

漁網の市場規模は縮小している。2016年の販売額は136億円で、80年代の500億円台から4分の1強に落ち込んだ。販売数量も3万トン台から6千トン台に下落した(第1図)。ピーク時には400社を超えるといわれる漁網メーカーが存在したが、現在、その数は8分の1まで減少している。

国内の漁網市場は、日本の漁業構造の変化に翻弄されながら縮小してきた。排他的経済水域設定後の遠洋漁業の縮小に加え、90年代以降の沖合漁業でのマイワシを中心とした水揚げ量の減少は、漁網の販売数量・販売額を引き下げる要因となった。漁業構造の変化に伴って、遠洋・沖合漁業に重点を置く漁網メーカーの一部は事業の縮小や廃業、譲渡を余儀なくされた。

現在、日本の漁業は水揚げ量や魚価の低迷、人口減少と高齢化に伴う後継者不足など多くの課題を抱えており、漁網業界の伸び代は見えない。設備投資や技術者育成を控えてきたメーカーも多く、経営者や技術者の引退をき

かけとした廃業も多い。価格競争力の面で劣ることから、輸出に展望を見いだすことも難しい。スポーツ施設・建築向け陸上網に技術を応用するメーカーもあるが、漁網に比べて価格帯が低いため稼ぎ頭とはなりにくいという。

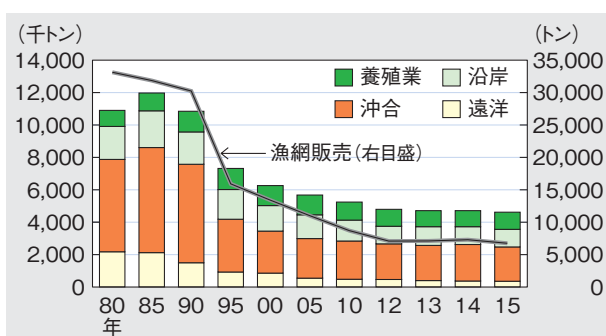
2 市場縮小と漁網メーカーの対応

漁網メーカーは、耐久性が高く重量の軽い無結節網^(注)の生産や、漁場・魚種に応じたきめ細かいサービスに重点を置くことで日本の漁業構造の変化に対応してきた。

現在、漁網生産量の3割を占める日東製網株式会社は無結節網を生産する代表的なメーカーの一つである。同社での聞き取りによると、70年代と比べて生産量こそ伸びていないが、水揚げ量の減少に対応してコスト削減を目指す漁業者の需要を同社の無結節網が捉えてシェアを高めてきたという。

また、漁網メーカーは地域の実情に合わせて、きめ細かなサービスに重点を置くことで取引を継続してきた。特に、沿岸の定置網の場合には、漁場調査を漁網メーカーが行い、漁網を漁場・魚種に合わせ手作業で仕立てている。各地に営業担当者を派遣して顧客である漁協・漁業者のニーズを把握し、それに合った製品を提供してきた。さらに、日東製網では、2000年代から顧客の販売先確保にも力を入れている。同社では、今後も漁網メーカーから漁協・漁業者への事業提案がますます重要になるとみている。

第1図 漁網販売量と漁業種類別生産量の推移



資料 農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」、経済産業省「生産動態統計年報」「繊維・生活用品統計年報」「繊維統計年報」
(注) 2000年、05年、10年は陸上網を含む。

3 地域漁協・漁業者との事業連携

日本の漁業は水揚げ量や魚価の低迷、人口減

**第1表 漁網メーカーが関わる
「もうかる漁業創設支援事業」**

プロジェクト (略称)	運営者	漁網 メーカー	期間
尾鷲	尾鷲漁協(三重)	日東	※
とやま市	とやま市漁協	日東	16年12月～
青森県漁業	青森県漁連	日東	16.11～
太地町	太地町漁協(和歌山)	ホクモウ	※
福井県	福井県漁連	ホクモウ	17.3～
山口外海	山口県漁協	ホクモウ	16.11～
五島定置	五島漁協(長崎)	日東・粕谷	16.4～
延岡	宮崎県漁連	ホクモウ	15.10～
能都	石川県漁協	ホクモウ	15.9～
鹿児島定置	鹿児島県漁連	ホクモウ	15.8～
秋田県	秋田県漁協	ホクモウ	15.3～
竹野	但馬漁協(兵庫)	日東	14.5～17.4
神奈川県	神奈川県漁連	日東	14.3～17.2
はぎ	山口県漁協	ホクモウ	13.12～16.11
網代港	鳥取県漁協	日東	12.4～15.3
舞鶴市	京都府漁連	ホクモウ	13.1～16.1

資料 NPO法人 水産業・漁村活性化推進機構webページ(17年6月6日現在)

(注) 「日東」は日東製網株式会社、「ホクモウ」はホクモウ株式会社、「粕谷」は粕谷製網株式会社。
※尾鷲、太地町は17年度から開始予定。

少に直面している。地域の漁協・漁業者と密接な関係を持ちながら展開してきた漁網メーカーもこの危機感を共有している。

こうしたなかで、水産庁の補助事業を利用しながら、地域の実情を知る漁網メーカーの営業担当者が、漁協・漁業者に働きかけて漁業の立て直しを目指す動きがある。「もうかる漁業創設支援事業」では、漁協等が設置した地域協議会が、事業の立ち上げと計画・運営を行っている。この地域協議会の一員として、漁網メーカーの営業担当者が計画段階から深く関わることも多い(第1表)。例えば、山口県漁協が16年から実施した「山口外海地域プロジェクト」では、漁網メーカーが関わりながら、新型船の導入で省力化・省人化を図り、休眠状態にある冬期のブリ定置網漁業を夏期



「荒銀サーモン」を持つ長井町漁協太田組合長

に水揚げの多い別の定置網漁業と一体で運用しながら周年操業を可能にしている。

一方、補助事業とは別に、漁網メーカーの営業担当者が取引のある漁協や漁業者を仲介した新たな事業の例もある。16年から神奈川県長井町漁協の区画漁業権を用いて、漁網メーカーの仲介を受けた東北の業者がカタクチイワシ養殖を開始した。漁協の直接的な収益は水揚額の3%のみであるが、これまで地元漁業者の餌が不足していた冬期に餌調達が容易になり、餌を求めるカツオ船が来港すれば同漁港が補給基地化するとの期待から利害が一致した。17年から銀サケ養殖も開始し、地域名を冠した荒銀サーモンとして漁協の直販店でも扱っている。

国内漁業は縮小傾向にあるが、展開の余地は残されている。地域の実情を知る漁網メーカーと漁業者・漁協の事業連携は、ますます重要になるとみられる。

<参考文献>

- ・ 呼子武彦(1977)「転換期を迎えた漁網業界」『農林金融』第30巻10月号
- ・ 山本興治(1980)「最近の漁網業界」『下関市立大学論集』第24巻1号
- ・ 出村雅晴(2009)「漁船漁業構造改革対策事業の現状と課題」『農林金融』第62巻10月号

(う えだ のぶひろ)

(注) 通常の結び目のある網(有結節網)と違い、糸をすり合わせながら製造する結び目のない網。